

unworked

紙など

2016

徳重道朗

結論から言えば、今回の企画を受けて作品を作るには至りませんでした。

お話を伺った先生方のご研究はどれもとても刺激的でしたが、

中でも、崎統合バイオサイエンスセンター オリオンプロジェクト 核内ゲノム動態部門の

宮成先生のご研究は示唆に富んだものでした。

「私たちの生命は、たった1つの受精卵からスタートします。受精卵が細胞分裂を繰り返す過程で、個々の細胞の運命が決定され、最終的には生体内の様々な組織を形成します。私たちは、その細胞の運命決定のメカニズムを解き明かそうとしています。」(基礎生物研究所 HP より引用：

http://www.nibb.ac.jp/sections/OIB/LABORATORY_OF_NUCLEAR_DYNAMICS/)

つまり、受精卵は細胞分裂を繰り返しながら徐々に細胞数を増やしていくのですが、あるときまでは全て同じ細胞であるのに少しずつその構造に差が出てきて、やがて別々の組織になっていく。その時どのようにしてそれぞれの細胞の「運命」が決まっていくのか、そのメカニズムの研究をされています。

そしてその過程において、

- ・ある程度までは細胞の変化は可逆的であるということ

つまり運命が決定された細胞はもちろん元に戻ったり、別の細胞になったりといった変化はできないのですが、その過程においてはある程度までは例えば A という構造を持つ細胞が B という構造に変化したのち、また A に戻ることもあるということ

- ・細胞間の相互作用やコミュニケーションがあるということ

- ・変化を促す中心となるような細胞群が生じること

などその時の細胞の様々な挙動は観察されており、他の研究者の方の成果も含め、様々なヴィジュアルイメージとともにご説明いただきました。

それら運命決定以前の細胞の挙動には想像力を随分と刺激され、作品制作の動機となり得るものではあったのですが、そこから展開された作品よりもむしろその構造こそが面白いことは自明であるので、今回はそれが垣間見れるような場を展開するという思いに至りました。